

図によれば、陸地上の気温は夜に入って低下してはいるが、その影響はごく下層 (200~300 m) にのみ限られている。これは、地中温度および初期の気温分布の仮定にもよるが、より根本的には鉛直成層が安定な場合の鉛直拡散項の適用に問題があると考えられる。

### 5. おわりに

渦拡散係数を局所的な場の量だけから決める方法として、計算が簡単なレベル-2 の closure model (Mellor・Yamada, 前出) を選び、鉛直分解能が粗いモデルに適用した場合の問題点を調べてみた。地表付近の鉛直成層が安定の場合には問題があるが、不安定の場合には、ここでテストした c-モデル程度の粗い分解能でもほぼ妥当な結果を与えているように思われる。ここに示した結果は、水平の格子間隔 数十 km の予報モデルに適用するための予備調査として行なったものである。このような予報モデルに適用した場合の解析については、別に報告したい。

御討論いただいた電子計算室の方々および気象研究所の時岡氏にお礼申し上げます。

### 文 献

- Barker, E.H. and L.B. Thomas, 1975: A note on the computation of atmospheric surface layer fluxes for use in numerical modeling, *J. App. Met.*, 14, 260-622.  
Blackadar, A.K., 1957: Boundary layer wind

- maxima and their significance for the growth of nocturnal inversions, *Bull. Amer. Met. Soc.*, 38, 283-290.  
Businger, J.A., J.C. Wyngaard, Y. Izumi and E. F. Bradly, 1971: Flux-profile relationships in the atmospheric surface layer, *J. Atmos. Sci.*, 28, 181-189.  
Deardorff, J.W., 1974: Three-dimensional numerical study of the height and mean structure of a heated planetary boundary layer, *Boundary layer Met.*, 7, 81-106.  
Lettau, H.H. and B. Davidson, 1957: Exploring the atmosphere's first mile, vol. 1 and 2., New York, McGraw-Hill, 712 pp.  
Mellor, G.L. and T. Yamada, 1974: A hierarchy of turbulence closure models for planetary boundary layers, *J. Atmos. Sci.*, 31, 1791-1806.  
O'Brien, T., 1970: A note on the vertical structure of the eddy exchange coefficient in the planetary boundary layer, *J. Atmos. Sci.*, 27, 1213-1215.  
Paulson, C.A., 1970: The mathematical representation of wind speed and temperature profiles in the unstable atmospheric surface layer, *J. App. Met.*, 9, 857-861.  
Sasamori, T., 1970: A numerical study of atmospheric and soil boundary layers, *J. Atmos. Sci.*, 27, 1122-1137.  
Tsann-Wang Yu, 1977: A comparative study on parameterization of vertical turbulent exchange processes, *Mon. Wea. Rev.*, 105, 57-65.

## 第20期第3回理事会議事録

日 時 昭和54年5月22日 (火) 17.30~19.00

場 所 竹橋会館

出席者 岸保, 小平, 内田, 植村, 奥田, 神山, 河村, 関根, 新田, 松本, 増田, 山下 各常任理事, 孫野, 田中, 清水, 柳原, 石川, 中島, 伊藤, 山元, 沢田, 坂上 各理事, 当舎 監事

- 議題 1. 総会準備について (1)理事あいさつ (案), (2)昭和53年度事業経過報告, (3)昭和53年度決算書, (4)昭和53年度監査報告, (5)山本賞 (気象学会の部) 受賞者選定規定に関する件, (6)山本賞の設定に伴い学会賞受賞者選定規定および藤原賞 (気象学会の部) 受賞者選定規定を一部改正

する件, (7)日本気象学会定款のうちの細則の一部改正の件, (8)昭和54年度事業計画 (案), (9)昭和54年度予算書 (案) 以上原案承認。

2. 日本気象学会創立100周年記念事業について 常任理事会で検討した次の計画 (案) について説明があった。(a)記念論文集の発刊 (和文, 英文), (b)日本気象学会史の出版, (c)記念式典, (d)記念講演会, (e)気象展覧会 (気象測器展示会), (f)できれば国際的な会議を開催したい。これらについて種々意見が交された。今後準備委員会を発足させて検討することとする。なお, 『天気』編集委員会で取り上げられた『天気』特別記念号 (案) について内田常任理事か

ら説明があった。

3. 賛助会員の勧誘について 各支部役員においてこの際積極的に会員増加に協力されるよう要請した。なお、各支部長あてにも依頼状とともに関係書類を送ることにした。
4. 昭和55年当番支部について 関西支部に依頼することです承された。
5. その他 (1)第5回リモートセンシングシンポジウム協賛の件 計測自動制御学会会長から、き

たる11月27、28日機械振興会館で行なわれる表記の件について協賛依頼がきたので、さしつかえない旨回答することを了承。(2)第6回レーザ・レーダ(ライダー)シンポジウム協賛の件レーザ・レーダ研究会会長稲場文男氏から、きたる11月8、9日伊東市で行なわれる表記の件について協賛依頼がきたので、さしつかえない旨回答することを了承。

承認事項 小高昇ほか42名の新入会員を承認。